

【特集：歴史的視野から見た現代中国経済】

序文：中国経済発展の分析視角

中兼 和津次

【キーワード】 経済発展、相対後進性、初期条件、制度

【JEL 分類番号】 O1, P2

めざましい発展を遂げてきた改革開放以後の現代中国経済。どこからこの発展のダイナミズムは生まれたのか、その要因を探ろうとすると歴史的起源に必ず辿り着く。現代中国経済はいかなる歴史的経緯の下で発展してきたのか、どのような歴史的遺産を過去から引き継いだのか、何がそうした遺産を形成したのか、またいつからその遺産は生まれたのか・・・現代中国経済の発展を歴史的視野から見ると、こうした問題に答えていかなければならない。単に現在を過去と対比して何がどう違っているのかを見るだけではなく、過去からの推移の軌跡の上に現代を位置づけ、長期的視野の中で発展のメカニズムを明らかにする必要があるだろう。

歴史的視野から見た現代の経済発展、というとガーシェンクロンの名著 *Gerschenkron* (1962) を思い出す¹。彼はイギリス、フランス、ドイツ、ロシアと続く欧州における継起的経済発展の原因を「後進の優位 (advantage of backwardness)」に求めた。先発国が開発した技術が後発国に次々と伝播され、後発国である途上国は遅れていることの優位性を發揮して先発国にキャッチアップしていく、そうした連鎖

の過程として経済発展を捉えたことはよく知られている。

それでは改革開放後の中国にはどのような「優位性」があったのだろうか？ 欧米や日本など先進国からの直接投資による技術移転か？ それも確かにあっただろう。安い賃金を求めて多くの海外資本が1980年代以降続々と中国に工場を建設した。それと同時に先進国から近代的技術が移転されるようになった。その技術は必ずしも「プロダクト・サイクル」論や、雁行形態論が暗に想定するような先進国で陳腐化した技術だけではなく、一部は最先端の、たとえばICのような技術も含まれていた。そのことは、中国が後発国で安い労働力を大量に供給できたという優位性ばかりではなく、経済のグローバル化、産業集積の拡大、急成長による国内市場の拡大、といった、他の要因が作り出す優位性もあったことを示唆している。

もう一つの優位性は、後進性とは別の初期条件 (initial conditions) から来る。仮に改革開放直後中国が全くの「白紙」だったとしよう。資本もなく、技術もなく、教育もなく、あるのはただ膨大な人口と低賃金労働力だけだったとしよう。その時中国には海外から直接投資が来たのだろうか？ あるいは、そもそも発展できたのだろうか？ 多分できなかったと思われる。中国には発展を可能にした初期条件が備わっていた、と解釈するのが自然である。直接投資が求めた

1 この本の大部分は、その後 *Continuity in History and Other Essays* 所収の一部の論文とともに邦訳されている (ガーシェンクロン (2005) を参照)。

のは単に安い労働力ではなかった。もしそうなら中国以上に賃金の安いインドやヴェトナムなど他の途上国に FDI は行っていたに違いない。中国の労働力は安くて豊富であったばかりではなく、質的に優れていたから海外の資本は彼らを雇用したのである。それでは、質のいい労働力は誰が作ったのだろうか？ それは、改革開放前の毛沢東時代に作られていた。

あるいは、全くの技術的基礎無しに先端技術は中国に伝播しえたのだろうか？ 確かに毛沢東時代の技術は時代遅れだったかも知れない。しかし、1950年代からすでにソ連の技術を輸入し、自動車などの「近代的技術製品」を作っていたということは、1980年代末に海外から先端的自動車工業が進出するさいの、技術的受け皿が用意されていたことを物語っている。鉄鋼業や化学工業など、多くの製造業において毛沢東時代に基礎は築かれていた。それは、丁度満州国時代の遺産が革命後の中国に残されたのと同じようなものである。こうした初期条件は、中国が遅れていたのではなく、ある意味で「進んでいた」ことを示している。

初期条件は、経済発展や体制移行においてきわめて重要であることは言うを待たない。そのことを言い換えると、現在の経済は出発点における経済状況やその時の環境に大きく左右され、また出発点を累積させていけば「過去」になるから、一国の現在の経済は歴史的遺産 (historical legacy) に強く支配される、ということにもなる。有名なノース (North) の「経路依存性 (path dependence)」論は、ニュアンスの違いはあれ、基本的にはこの歴史としての初期条件の重要性を指摘したものを見なすことができよう。ノースは次のようにいう。「経路依存は歴史が重要であることを意味する。われわれは、制度の漸進的な生成発展をたどることなしに、現在の選択を理解することはできない」(ノース1994, 132ページ)。彼にいわせれば、現在選択されている制度も、また技術も、そこにはさまざまな偶然的要素が絡むとしても、制度と技術の持つ「収獲逦増」性と正の取引費用を梃子

にして、過去の選択が積み重なって生み出されてきたものである²。

話を経済発展に絞ると、現代経済の発展要因としてこれら初期条件以外に(現在の)政策や制度も大事である。全てが初期条件によって決定されるとするなら、一種の運命論や宿命論になってしまう。貧しい国は貧しかったが故に貧しいという、悲観的世界しか描けないことになる。しかし、逆に全て政策や制度によって経済は発展できると考えると、政策や制度が人の手によって作られるものである以上、恐らく経済発展は決めて機械的なプロセスになり、どの国も「やり方さえよければ」簡単に発展できるという楽観的世界が生まれることになるだろう。もっとも現実的な見方は、経済発展は基本的には政策や制度が決めるが、その政策の選択や制度の形成にも初期条件が大きく関わっており、過去無しには現在では語れない、ということになるだろう。それでは、どのような初期条件が改革開放以後の中国の発展と密接に関係しているのだろうか？ そしてその条件は果たして改革開放以前にどのように作られていたのだろうか？

これまでも長い歴史的視野の中で現代中国の経済発展を位置づけて著作がなかったわけではない。一部の「現代中国経済論」は革命前の、あるいは時には中国史全体の状況から説明し始める(たとえば中兼(1999)、蔡・林(2003)、Chow(2007)などを参照)。しかし、過去という初期条件がどのように現代と結びついているのか、詳細に分析した論文はきわめて少ない。Naughton(2007)は、初期条件(歴史的遺産)の現代中国への影響を2つに区分する。一つは改革開放前の中国経済への影響であり、それには貧困と低開発のほか例えば人的資本を挙げる。もう一つは改革開放以後の経済への影響であり、そこには家族経済や発達していた市場な

2 ノースの経路依存性論では「収獲逦増」が強調されている。それは収獲逦減の制度や技術では経済が発展していかないからだろう。

どを挙げる。

しかし、制度や技術だけではなく、政策や構造が過去からどのように変遷し、現代に繋がっているか、またそうした連続性はどれほど現代の中国経済の発展に貢献しているのか、もっと多くの側面、領域、あるいは時期にわたって論じていかなければならないだろう。川井論文が取り上げた「会社制度」や丸川論文が扱った「温州の産業集積」はそうした試みのほんの一端である。市場制度が中国でこれまで長期にわたりどのように発達してきたのか、労働力や人口の移動は伝統中国ではどうだったのか、金融制度の発達において民間金融組織はいかなる役割を果たしたのか、等々、追求すべき課題はきわめて多い。華々しい現代にばかり目を向けるのではなく、歴史的視野の中で今日の経済発展を考える一つの材料にこの特集がなれば幸いである。

引用文献

【日本語文献】

ガーシェンクロン, A. (2005) (絵所秀紀・他

訳)『後発工業国の経済史:キャッチアップ型工業化論』ミネルヴァ書房。

中兼和津次 (1999)『中国経済発展論』有斐閣。
ノース, D.C. (1994) (竹下公視訳)『制度・制度変化・経済成果』晃洋書房。

【中国語文献】

蔡昉・林毅夫 (2003)『中国経済：改革と発展』中国財政経済出版社。

【英語文献】

Chow, G. C. (2007) *China's Economic Transformation* (2nd ed.), Malden, Mass., Blackwell Publishing.

Gerschenkron, A. (1962) *Economic Backwardness in Historical Perspective: A Book of Essays*, Cambridge, Mass., Belknap Press of Harvard University Press.

Naughton, B. (2007) *The Chinese Economy: Transitions and Growth*, Cambridge, Mass., MIT Press.

(なかがね かつじ・

青山学院大学国際政治経済学部)

China's Economic Development in Historical Perspective: An Introductory Note

Katsuji NAKAGANE (School of International Politics, Economics and Communication,
Aoyama Gakuin University)

Key Words: Economic Development, Relative Backwardness, Initial Conditions,
Institutions.

JEL Classification Numbers: O1, P2.

The Chinese economy has rapidly developed since the beginning of reforms and open-door policy in the late 1970's. But when it comes to a question: How today's development in China is originated, we have to see it as a historical process. As Douglas North argues, today's institutions are strongly dependent on the historical path. Technological development of today, either, cannot be separated from the past performance. Thus we need to ask how China's development benefits from and /or is constrained by its historical legacies. In the following papers two issues are taken up: development of corporate system in China and industrial agglomeration in a district of Wenzhou, Zhejiang province. These are of course just experimental studies on China's economic development from historical aspects. More studies on its historical legacies are expected to be followed, such as those on how financial institutions have been transformed in China since the prewar period, how market organizations have developed in the long run, so on and so forth.